

練習試合で交流を深めた会津北嶺高と輪島高の選手ら



会津北嶺高、輪島高で練習試合

球児再会、共に汗

会津北嶺高(会津若松市)の野球部は10日、能登半島地震で被災した石川県志賀町を訪れ、輪島高(輪島市)と練習試合を行った。昨年8月、会津北嶺高が市内に輪島高を招き、交流試合や合同練習を行ったことで縁が生まれた。両校の球児は久しぶりの再会を喜びながら、懸命に白球を追った。

被災の海岸で漂着物撤去も



練習試合には会津北嶺高から38人が参加した。2試合を戦い、いずれも会津北嶺高が勝利した。輪島高野球部

の保護者による昼食の振る舞いもあった。1年生26人は輪島市を訪れ、ボランティアに従事した。地震と豪雨で被災した曾々木海岸で漂着物の撤去やごみ拾いに取り組んだ。活動後は地域住民らと夕食をとり、親睦を深めた。

主将の五十嵐悠斗さん(3年)は「石川県内は復興が進んでいるが、場所によってはまだ道半ばだと感じた」と印象を語った。輪島高と再戦を果たし「試合ではお互いのチームの成長を感じられた」と振り返った。



会津北嶺高は昨年5月に石川県に遠征した。主力組が練習試合をする中、控え部員らが輪島市内で復旧ボランティアとして活動。輪島高のグラウンドが使えず練習環境が限られている状況を知り、会津若松市に招待して交流試合を行った。海岸の漂着物撤去に汗を流す会津北嶺高の選手